

震災被害と救援活動



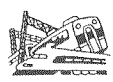
死者 5501人
不明者 2人
負傷者 3万4568人
避難者 32万298人
避難所 1247か所
(以上ピーク時)



全壊家屋 8万2105棟
一部損壊 9万8892棟
(半壊を含む)



火災発生件数 (消防庁調べ) 531件
焼失面積 (兵庫県推定) 100畝



鉄橋・高架の落下 21か所
脱線 15本
トンネル破損 5か所
駅舎・施設損壊 40か所



高速道の橋ゲタ落下 9か所
(うち橋脚倒壊 6か所)



24港で港湾損壊



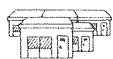
不通、損壊箇所 復旧率
電気 約100万戸 100%
ガス 85万7400戸 30.5%
水道 121万9000戸 85.0%
電話 47万3500回線 100%
下水道 処理場など60か所
で損壊

損害額

9兆9630億円
(兵庫県調べ)



救援活動 (延べ数)
陸上自衛隊 42万5000人
人車両用機 8万6000台
航空機 2500機
海上自衛隊 9万9100人
艦艇 432隻
航空機 750機
航空自衛隊 230機
消防団員 6万1000人
海上保安官 3万2000人
医師・看護婦 約4万5000人
他府県からの応援職員 9万人
警察官 最大時 3万人/日
消防職員 最大時 約8000人/日
兵庫県などのボランティア 申し込み 2万4000件



建設予定戸数 4万戸
人居済み戸数 463戸
同 人員 約1400人
(2月14日現在)

義援金

796億600万円
(義援金募集委員会まとめ、
2月14日現在)

十センチのコンクリート天井が百二十メートルにわたり垂れ下がるなか、すき間を縫うように地上に出た。列車の長さは計百十四メートル。地震発生時、最後尾はまだ駅の中。「もし十秒遅れていたら」。畝本と早川はこぼれた顔を見合わせた。地下は地震に強いという通説が、コンクリート天井とともに崩壊した。

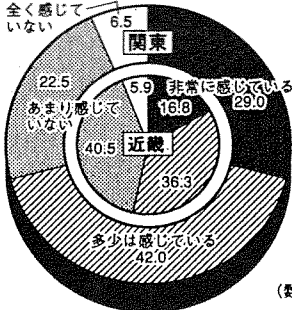
出し、手渡した。JRの神戸発富山行き「スーパー雷鳥一号」を鷹取駅まで回送中の中島康正(三三)は、住吉駅で「シェパード白馬・榎池六号」を追いついた。時速九十キロ。西明石発京都行き普通電車とすれ違った。「あつ、置き石」と感じた。腰が浮いた。三ノ宮駅七百メートル手前で停止。懐中電灯を取り出し、運転席のドアから線路に飛び降りた。十両の車両が波打ち、うち八両が脱線。百メートル後ろには普通電車。その向こうにシユブル六号が脱線、無残な姿をさらしていた。列島の動脈が地上で地下で高架でスタスタに切断されていた。もし通勤時間帯だったら。

本紙世論調査

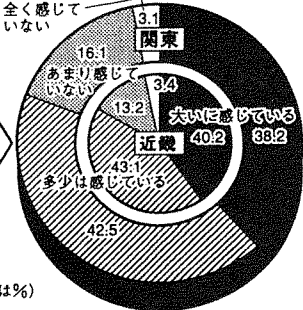
「地震への不安を感じる」

読売新聞社が実施した過去の世論調査を見ると、近畿地方はこれまで、地震への不安を感じる人が関東地方に比べて少なかったことがわかる。1991年には、「非常に感じている」は、近畿では17%で、「多少」の36%を合わせたもようやく過半数を超える程度。しかし、阪神大震災直後の今年1月の調査では、「大いに感じている」は近畿で40%にのぼり、「多少」を合わせると83%と、不安を感じる人の割合が関東地方の81%を上回った。

日ごろ、地震に対して不安を感じているか
(1991年8月 全国3000人面接調査)



住んでいる地域で大きな地震への不安を感じているか
(1995年1月28、29日 全国1500人電話調査)



(数字は%)

注のないものについては2月15日現在、読売新聞社調べ、死亡者数は4月7日現在